

令和6年9月27日（金曜日）

新市立高等学校設置特別委員会

議会会議室

出席委員

竹中隆一、蔭山敏明、白井義一、西本眞造、
山口 悟、石堂大輔、萩原唯典、大西陽介、
妻鹿幸二、牧野圭輔、金内義和、谷川真由美

開会

9時56分

教育委員会

9時57分

報告事項説明

- ・新市立高等学校の開校に向けた取組について

質問

10時08分

（質問）

姫路市立高校メッセについて、チラシの対象の欄に、「中学生・小学生及びその保護者など、特に制限はありませんが、開催趣旨をご理解いただける方」と記載されているが、開催趣旨とは何なのか。また、なぜこのような記載を行ったのか。

（答弁）

開催趣旨については、県下一斉に開催されたオープンハイスクールに参加できなかった人や参加した上でもう少し知りたい人に、市立3校の魅力を感じていただける見本市として実施したものである。

また、当該チラシは一般市民等にも公開しているが、学生や保護者以外の方がどのような意図を持って参加するのか図りかねていたため、オープンハイスクールに関連した内容であるということ伝えるために、他都市の事例を参考にそのような記載を行った。

（質問）

部活動について、市立3校による大会への合同出場や合同練習などを検討しているとのことだが、市立3校は距離が離れていることから、様々なハードルがあるのではないと思う。具体的にどのように合同練習をしようと考えているのか。

（答弁）

合同練習がとても大変なことは認識している。

学年の減少に伴い教員も減少する中で、どのように運用していけるかということをお話している。

閉校までしっかりと部活動を維持したいという教員たちの強い思いもある。子どもたちの意見をしっかりと聞きながら、合同練習だけではなく、様々な対応を

考えていきたい。

（質問）

市立高校が3校から1校になることで、市内の高校に入学できず、遠方の高校に通うことになる生徒が出てくるのではないかと心配である。

中学校卒業生数に応じて学級数が設定されるため、高校に入学しにくくなることはないとのことだが、県の教育委員会ときちんと話し合っているのか。

（答弁）

県教育委員会とは常に情報共有をしており、子どもたちができるだけ市内の高等学校に通えるようにしてもらいたい旨の要望もしている。

（質問）

現在の市立3校の中で最も校地面積が広い琴丘高校が6万6,501平米で、市場跡地の面積は5万8,296平米だが、同跡地を全て学校用地として利用するのか。

（答弁）

新設校は単位制で様々な学びを行うため、市場跡地全体を使用し、充実した学校をつくっていききたいと考えている。

（要望）

市場跡地全体が学校用地として必要だという根拠を示してもらいたい。

（質問）

統合新設校が目指す学校像や生徒像について、地域のリーダー校やレジリエンスという表現がされているが、子どもたちや市民に対して説明するのであれば、漠然とした言葉ではなく分かりやすい言葉で伝えるべきではないのか。

（答弁）

できるだけ分かりやすい言葉で子どもたちに伝えていけるよう、今後、教育長や市立3校の教員による検討委員会で議論したい。

令和6年度末には教育課程とスクールポリシーという形で出てくることになると思うので、できるだけ具体的に説明していきたい。

（要望）

説明責任を果たすためにも、分かりやすく説明してもらいたい。

（質問）

今年度の中学3年生が市立3校への最後の入学生に

なるので、市立高校を受検の選択肢から除外するという保護者の声について、どのように考えているのか。

(答弁)

市立高校だけでなく県立高校の再編もあり、生徒や保護者にとって不安が大きいことは重々承知している。

姫路市立高校メッセの来場者の中には、「不安になっていたが、実際に先生たちと触れ合う中で市立高校の受験を決めた。」と言って帰る生徒もいた。

再編を進める中で、分かりやすい言葉で丁寧に説明していく。

(要望)

保護者や生徒だけでなく、現場の教員も進路指導をする上で大変だと思うので、きめ細やかな情報発信をしてもらいたい。

(質問)

久保田教育長の就任直後に、市立3校の統廃合について再検討してほしいという署名を教職員団体から受け取っているかと思うが、そのような署名が集まっていることについてどのように考えているのか。

(答弁)

署名だけでなく、教員と話す中でも、市立3校の統廃合への不安があることは認識している。

情報提供が難しい部分はあるが、速やかに分かりやすい言葉で説明し、安心感を持ってもらうことも重要だと思う。

皆さんに共感、納得してもらい、教育委員会や教員に対して信頼感を持ってもらうことで支援してもらえるものと考えている。

(質問)

統合新設校は今の市立3校の伝統等を盛り込んだものになるのか、それとも全く新しいものをつくっていくのか。

(答弁)

市立3校の伝統を継承した学校という面もあり、新たな時代に合った高校の教育を推進するという面もある。

市立3校の教職員も参加する検討委員会では、新設されるのだから新たな時代に合った学校にしたいという意見が出ているが、統合新設校の基となるのは、今の市立3校の教員や施設であることから、そのよさ

をできるだけ生かしながら、新しい学校をつくっていききたい。

現場の職員も含め、新しい学校として、これから必要なものをしっかりと見極めていこうという思いを強く持っている。

(質問)

これまでも姫路市立高校メッセのようなPRの取組を各学校でしていたのか。それとも今回の市立高校の統廃合をきっかけに開催したのか。

(答弁)

学科コース等の説明や体験入学を伴う学校説明会、オープンハイスクールを毎年実施し、それぞれの市立高校の学習内容や魅力について発信しており、今年も開催している。

(質問)

現時点で市立3校の海外姉妹校は具体的にどこなのか。

(答弁)

姫路高校はオーストラリアのアデレード市にあるプルトニーグラマースクール、琴丘高校はアメリカのフェニックス市にあるセントラルハイスクール、飾磨高校は、オーストラリアのアデレード市にあるバンクシアパークハイスクールとそれぞれ姉妹校提携を結んでいる。

(質問)

統合新設校の校名案の公募について、応募件数の上位はどのような内容だったか。

(答弁)

姫路という言葉が入ったものが多く、姫路中央、姫路白鷺、市立姫路、姫路市立などが上位である。

(質問)

校名は最終的には教育委員会が決定するのか。

(答弁)

校名案の公募は、人気投票ではなく、アイデア等を整理するために実施したものであり、統合新設校にふさわしい名称を教育委員会事務局で検討し、最終的に教育委員会に報告した上で決定したい。

(質問)

統合新設校の学級数は10学級が基本という認識でよいのか。

(答弁)

学級数に関しては未定であるが、県教育委員会としっかり連携し、できるだけ早い時期に提示したい。

(質問)

単位制を導入している高校は少ないと思うが、学習内容に隔たりができるなど、デメリットはあるのか。

また、メリットについても説明してもらいたい。

(答弁)

メリットは一人一人に合わせたカリキュラムが組めるところだが、自分の進路をしっかりと見極めていないと、科目選択の際に混乱してしまうので、デメリットもある。

学級担任だけでなく、ほかの教員やキャリアセンターのスタッフなどが複数で子どもたちに関わることで、子どもたちがしっかりと科目選択でき、自分が本当にやりたいことが何かを見極められるものと考えている。

(質問)

中学校の不登校生徒に対する入学に際しての配慮や、入学してからのフォローについてどのように考えているか。

(答弁)

市立3校は、スクールカウンセラーを週1日、1日当たり8時間を年間35回という形で、中学校よりも手厚くそれぞれの学校に配置している。また、主に中学校に配置しているスクールソーシャルワーカーを連携校として市立3校でも運用している。

統合新設校についても、今の体制を基準にしながら、手厚くサポートしたいと考えている。

(質問)

特別支援教育やインクルーシブ教育について、統合新設校ではどのように実施しようと考えているのか。

(答弁)

現在のところ特別に何か実施することは現在のところ検討していない。

(質問)

今後、小中学校の児童生徒数が減少することで給食センターの調理能力に余裕が出てくるのではないかと思うが、統合新設校で給食を実施することについてはどのように考えているのか。

(答弁)

基本的には、学校給食を小学校や中学校と同様の形

で提供することは考えておらず、学食などを利用してもらう方向で考えている。

(要望)

高校生の食育や子育て世代への支援という観点から、給食があることは非常に有効であると思うので、給食の実施を検討してもらいたい。

(質問)

中高一貫教育については検討しているのか。

(答弁)

令和8年度の開校時に導入する予定はないが、開校後に導入するかどうかも含めて検討する。

(質問)

校則についてはどのように考えているのか。

(答弁)

今の市立3校の校則を踏襲する部分が多いと思うが、文部科学省が示している生徒指導提要において、校則は子どもたちと一緒に作り上げていくという形になっており、今後、子どもたちが実際に入学したときに、自分たちの学校を自分たちで新たにつくるという意識も持ちながら、校則を新たにつくることは、新校のコンセプトに沿うものと考えている。

(質問)

姫路高校に建設する仮設校舎はどれくらいの規模になるのか。

(答弁)

主に職員室や校長室のような事務機能と教室を6教室持つ仮設校舎をグラウンドに建設する予定である。

職員室を本校舎から移動させたことで、空いた部分も改築し、単位制になり選択科目の増加に伴って必要となる教室にも同時に対応していく。

(質問)

同一校地内に姫路高校と統合新設校の校長を1名ずつ配置するのか。

(答弁)

現時点では、姫路高校と統合新設校の校長を兼務させることを検討している。

(質問)

市立姫路高校に隣接するパルナソスホールの移転予定はあるのか。

(答弁)

現時点では、パルナソスホールについての具体的な

検討はしていない。

(質問)

今の市立3校には偏差値の違いがあると思うが、統合新設校の偏差値をどの辺に設定しようと考えているのか。

(答弁)

統合新設校では、市立3校それぞれの偏差値帯よりも幅の広い偏差値帯の子どもたちを受け持つことになると考えている。

また、教育課程を公表していく中で、どのようなことを目指している子どもたちに来てほしい学校なのかを示すことで分かってもらえるものと思っており、中学校にも情報提供を行っているところで、教育課程の内容をしっかりと理解してもらいながら、できるだけ円滑に進めていけるように努力していきたい。

いずれにせよ、統合新設校では多様性を大事にし、それが教育の充実につながるものと考えている。

(質問)

優秀な中学生の特別推薦枠のようなものの導入は検討しているのか。

(答弁)

今のところ特別推薦枠は考えていないが、単位制を導入するので、現在の制度では約半分までが推薦入試という形になる。今後、県教育委員会と協議しながら検討したい。

(質問)

資料に記載されている校地面積はどこから抜粋したのか。

(答弁)

学校施設課で管理している学校施設台帳の数値を記載している。

(質問)

市のホームページで公開されている公共施設情報と数値が違うのはなぜなのか。

(答弁)

現在、学校施設課と行政経営課で確認中であり、後日報告させてもらいたい。

(要望)

公共施設の統廃合を進める上で、施設情報が一番重要だと考えているので、しっかりと確認していただきたい。

(質問)

今の姫路市の財政状況や、将来どのようになっていくかということを考えず、教育改革ばかり考えているように感じるが、それについてはどのように考えているのか。

(答弁)

財政状況が厳しい中このような大規模なプロジェクトを進めており、今後も少子化の進行は避けられず、適正規模・適正配置の問題も含め、学校自体の在り方が問われていることは十分認識している。

(質問)

教育委員会として、統合新設校の規模や予算をいま一度見直してもらいたいがどうか。

(委員長)

教育委員会でも議論してもらいたいと思うが、姫路市の経営の問題であるため、基本的には総務委員会でよく議論してもらいたい。

(質問)

令和8年度に統合新設校に入学した生徒は、市場跡地移転後の施設には一度も入れないまま卒業するという理解でよいのか。

(答弁)

そのとおりである。

(質問)

いつ完了するか分からないまま用地買収を進めているが、姫路高校の校地に新設する高校でも教育が進むのは矛盾するのではないのか。

(答弁)

姫路高校の校地に新設する高校での教育についてもしっかりと取り組んでいくが、市場跡地への移転後はそれに加えて、今の場所ではできないようなことも検討の中で入ってくると思うので、理解してもらいたい。

(質問)

市場跡地について、令和7年度には解体が完了し、借地権が解消されると思うが、借地権をそのままにして学校を建設することはできないのか。

(答弁)

借地による公共施設の運営を改めていくという市の全体方針に基づいて取組を進めている。

教育委員会終了

11時03分

閉会

11時03分

【予算決算委員会新市立高等学校設置分科会の審査】